

職人の建築文化継承 消費者も支援

NPO・匠リニユーアル

技術支援委員会

小野瀬 福彦
事務局長(62)

構計画の立案など消費者の支援も行う。この種のNPOは全国初という。

建築会社に勤めながら、建設現場を見てきた。建築から聞かない家が傾き、雨漏りするなど、問題建築が後を断たない。売る側の論理で市場は動き、職人が代々、培ってきた技能は軽視されるようになってきた。「現場から職人の姿が

これまで2回実施した「職人セミナー」には約120人が参加した。希望者を対象に筆記・実技試験を行い、合格者6人に協会の認定書を交付した。認定した職人が使う材料・工法の適定から施工・品質管理を検査し、結果を消費者に公開する。「職人と消費者の信頼を深め、匠の名に恥

「匠の名に恥じぬよう」

替え、作業員だけが増えた」と話す。

「しない職人を育てたい」との思いからだ。

2年前に定年退職し、昨年5月、友人らとともに「匠リニユーアル技術支援協会(事務局・東京練馬区)」を立ち上げた。職人技術の伝承や建築文化の継承を図りながら、修

【栗原 一郎】

クローズアップ

